

FMC

とうもろこしや
大豆の害虫防除への
高い信頼と実績。

日本メイズ生産者協会様、
JA全農様からの緊急
ご要望にお応えしました！

プレバンソント フロアブル5で アワノメイガを 徹底予防！



浸透性と移行性*に優れ、ドローンで散布できます！



飼料用とうもろこし(子実)
希釈倍数/使用液量の登録幅を拡大！
アワノメイガにドローンで
16倍、20~40倍で散布できます！

*葉内移行性や上方移行性

飼料用とうもろこしのすみずみまで有効成分が行きわたり、
アワノメイガの食入を防いで、徹底予防！
長い残効、優れた経済性。

飼料用とうもろこし以外にも、
60以上
登録作物！

隣接する
作物への
考慮がしやすく
使いやすい



15以上
の作物に「無人航空機による散布」登録！
ノズルの目つまりトラブルゼロ。ドローン散布に適したフロアブル製剤です。

特長 1 アワノメイガ、オオタバコガへの高い防除効果。

特長 2 葉裏に産卵され、孵化した幼虫も防除できる、
優れた浸透性と移行性。

特長 3 すばやく摂食活動をストップ。
長い残効で、しっかり飼料用とうもろこしを守る。



優れた浸透性
と移行性

葉液のかかりにく
い葉裏に潜む幼虫
の食害も、徹底予
防！

散布適期

雄穗出穂前
の防除が、
重要です！

早めの散布でアワノメイガの被害から、 飼料用とうもろこしをしっかりガード!

とうもろこしへの防除効果

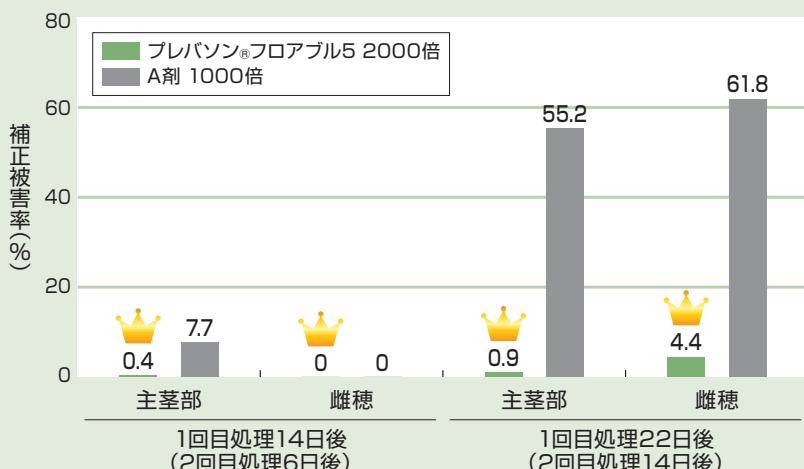
※飼料用とうもろこしに対する試験ではありません。

プレバソン® フロアブル5(2回処理)は、
対照薬剤(2回処理)よりも優り、
高い防除効果が認められた。

雄穂の出始めからの散布で、
アワノメイガによる被害を、
長くしっかりと抑えています。

【試験概要】
品種:キヤンペラ90 播種日:5月14日
処理日:6月25日(雄穂出穂初期)、
7月3日(雌穂出穂初期)-2回処理
調査日:7月9日、17日 発生状況:多発生
区制・面積:1区12.6m²(4.5×2.8m)、66株、3反復

アワノメイガに対する効果比較(2009年 日本植物防疫協会 高知試験場)



適用害虫と使用方法

2024年11月13日現在

| 作物名 | 適用害虫名 | 希釈倍数 | 使用液量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数 |
|---------------|-------------------------------|------------|--------------|--------|---------|------------|--------------------------------------|
| 飼料用とうもろこし(子実) | アワノメイガ ツマジロクサヨトウ | 2000~4000倍 | 100~300ℓ/10a | 収穫前日まで | 3回以内 | 散布 | 4回以内 (は種前の塗沫処理は1回以内、 は種後は3回以内) |
| | | 20~40倍 | 1~2ℓ/10a | | | 無人航空機による散布 | |
| | アワノメイガ オオタバコガ ツマジロクサヨトウ | 16倍 | 1.6ℓ/10a | | 3回以内 | 散布 | |
| | | 2000倍 | 100~300ℓ/10a | | | 無人航空機による散布 | |
| | オオタバコガ | 20倍 | 1~2ℓ/10a | | | | |

*この登録内容は子実のみを飼料とする場合に使用可能です。青刈りには使用できません。



△ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 本剤は無人航空機による散布に使用する場合は次の注意事項を守ってください。
 - ① 散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他の散布装置の十分な点検を行ってください。
- 適度の運搬を避け、可能な限り作業性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせて使用してください。
- つまり葉、間引き葉には使用しないでください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品种に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 酸飲などのないように注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗してください。

● 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。

● 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。

● 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。

● 昆虫に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかかるないようにしてください。

● 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。

● 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項: 薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること、ブロック式ローテーション、即ち、プレバソン® フロアブル5または他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーション使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

(1) Insecticide Resistance Action Committee (IRAC) ウェブサイト (<https://irac-online.org/>)

(2) <https://www.fmc-japan.com/trendinfo/irac>

● ラベルをよく読んでください。● 記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届くところには置かないでください。

● 空容器はほ場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水は散布液調製に用いるなど、ほ場等で使用してください。● 防除日誌を記帳しましょう。

©2025 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。

PRV-FHM1A



日産化学株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号
ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>
お客様窓口 TEL:03-4463-8271 (9:00~17:30 土日祝日除く)

製品情報は
こちらから→

